

マッピング法・マンダラート法の活用その2

実践例「卒業論文を書こう」取材・構成の段階

(2) 取材・構成の段階

① マッピング法を選択した生徒の学習活動

- 1) 中央にテーマあるいは要旨を短い言葉で書いて枠で囲む。
- 2) 要旨を支える主要な材料を3つから4つ考えて要旨の周囲に配置する。これは後に章立ての役割を果たす。
- 3) この主要な材料からそれぞれ連想される知識や体験、イメージなどをキーワードで連結する。
- 4) 行き詰まったら空欄にして、次の主要な材料に進む。
- 5) すべて書き終えた後、要旨に沿って選材する。また、必要に応じて何回かマッピング法を繰り返して適切な材料を絞る。
- 6) 適切な材料がそろったら、中央の主要な材料をもとに構成を工夫し、序論、本論Ⅰ、本論Ⅱ、結論などの語を書き込む。

② マンダラート法を選択した生徒の学習活動

- 1) 中央のセル（枠）に、題材もしくは要旨を数語で端的に表現して書き込む。
- 2) 周囲の8つのセルに、要旨に関わる材料を思いつくままキーワードで端的に書き込む。すべてのセルに書き込みができなくてもよい。
- 3) 書き込みを終えた後、要旨に沿って不要なセルを捨てたり、キーワードの加除を行う。また、必要に応じて別の用紙にマンダラート法を繰り返して、より適切な材料に絞る。
- 4) 適切な材料がそろったら、文章の構成を考えて、序論、本論Ⅰ、本論Ⅱ、結論などの語を書き込む。また、それぞれのセルをはさみで切り離して9つのカードにし、様々な組み立てを工夫する。

実践例「卒業論文を書こう」2つの技法の効用

(3) 2つの技法の効用 ―生徒の一言感想から―

① マッピング法を活用して

- いろいろなイメージが瞬間的に大きく広がった。
- 文や段落のつながり方や順序がわかりやすく、筋道の通った文章が書けた。
- 書きたいことがまとめてあったから便利だった。

② マンダラート法を活用して

- 9つのセルを使ったおかげで、たくさんの例を出すことができた。
- 1点だけでなく、広く目を向けて自分の意見が書けた。
- 今まででは話が広がりすぎて、関係のないものまで持ち込んでしまうことがあった。マンダラートだと、書くことがはっきりとしていて、余計なことが出てこないし、構成するときもしやすくよかった。